

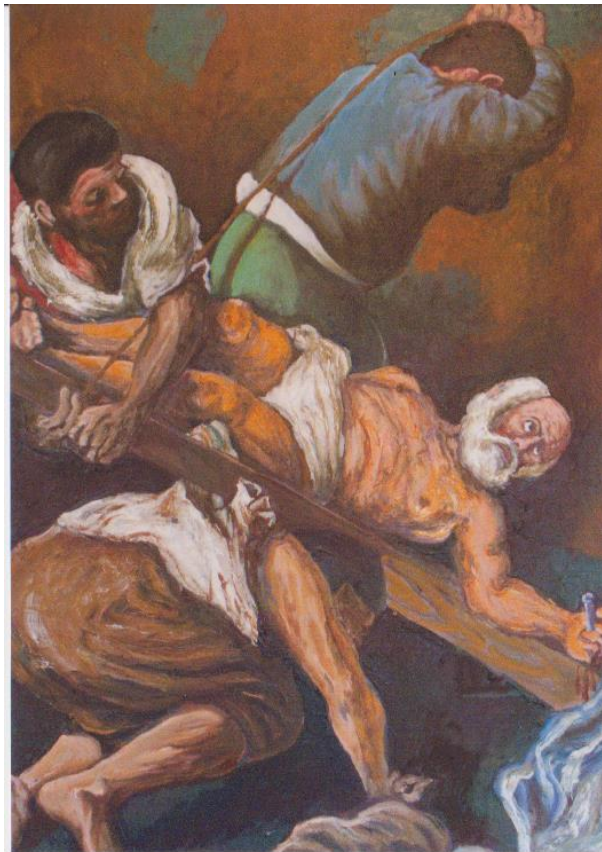
あかしびと

ペンテコステ号 2013.5.19 発行
日本バプテスト同盟 金文庫教会

伝説によれば、ペテロはイエス様と同じような格好で十字架につけられるのもつたないといつて、このような逆さ磔を希望したともいわれています。

カラヴァッジオによる「聖ペテロの逆さ磔」の模写

中山将太郎画



目次

私のペンテコステの日.....	白根新治(牧師).....	p2
あかし.....	中本 勉.....	p3
汚い話.....	中山将太郎(医博).....	p3
インドの子供たちが教えてくれたこと.....	星野 優.....	p4
信仰に生きる「私の不信仰をお許し下さい」.....	故大井 人(元協力牧師).....	p5
もつと神様について語って下さいっ！.....	犬塚志朗.....	p6

私のペンテコステの日

白根新治(牧師)

人の一生は偶然の連続だと思っていた時代があった。それがキリスト信仰に入って一切が神の御手の中で、神の愛に守られて営まれているものという確信を与えられて、感謝な想いを懐きつつ過ごせるようになった。爾来、時には悩み、苦しみ、悲しむことは何度もあった、がその都度、神に祈り、自らの罪を悔い改め、神の赦しを乞いつつ今日に至った。若き日に実兄の導きで関東学院中学部に入學し、キリスト教信仰に忠実で模範的に生きていた諸先生のご指導を受けたのはありがたいことだった。今でもそれを思うと有難うございました、と素直に喜べるからである。

紀元六四年のネロ皇帝時代の激しいキリスト弾圧が日本には皆無というわけではなかった。こ

れにより悲惨な境遇を経験された多くの方々もあったことは事実だが、幸いにも私は入信による汚名を着ることはなかった。軍隊での3年間の生活の中で種々信仰の問題を問われたが、一生を棒に振ることはなかった。戦後は逆に神学校も出ていない時に喜んで牧師の鞆持ちをしていた事を忘れられない。

神学校を卒業後、教会の伝道師として働いたが、毎日が感謝と喜びに溢れて、福音伝道にひたすら努めていた。そのころと今も変わりが無いが、特に初代の教会の歩み方を学び、日増しに聖書の捕虜(とりこ)となつていった次第である。弟子たちが主の十字架に架かったのを目の当たりして、どんなに困惑しただろうか。特に主に愛されたペテロ、ヨハネなど主を棄てて逃げ出したのである。しかしそのような弟子を見ながらも、その愚かな弟子をじつと見つめているイエス、外に出てわあつと

泣き出したペテロの姿を聖書の中に見て、「これは私だ!」と叫んだ時の心の叫びを言葉では言い表せない。今でもその時の経験を告白せねばならない。

使徒行伝を聖霊行伝といつても差支えないが、水と共に聖霊によるバプテスマのことを真剣に考えるようになった。

若き日に、友人に誘われて行った教会がメソジスト教会であった。当然メソジストの祖ジョン・ウエスレーのことを学ぶ機会も多くあった。ウエスレーがアルダスゲートの教会で聖霊体験をして、残る生涯を馬の背にもたれかかって、伝導した世界的伝道者であることを知って、一種の憧れがあるが、それを持った。そして初代教会もこの聖霊に導かれて、やがて証人(あかしびと)として十字架のイエスと復活を信じる信仰を生涯証し続けたのである。

「ただ聖霊があなたがたに下る時、あなたがたは力を受けて、

エルサレム、ユダヤ、サマリヤ全土、さらに、地の果てまで私の証人となるであろう」(使途1:8)

ペンテコステはあの弱者と罵られた弟子たちの上に、助け主なる聖霊の力が注がれた日である。

イエスを裏切り、逃げ出したペテロに慈愛の眼を注がれた主の涙によって、最後に逆さ十字架に架かって殉教の死と遂げたペテロの生き方を私自身のもととする日、これが私のペンテコステの日である。



あかし その一 中本 勉

初めにお断りしておきますが、単なる自慢話として書くのではありません。八七歳になった私が今まで歩んできた道を、人生の後輩の皆さんに語り種(ぐさ)として、何かの参考になればこの上なき歓びと思い、筆を執るに至りました。礼拝後の証しの時間が短いことから、ある姉妹のお奨めに従って、連載物としてひと先ず三回に分けて書くことにしました。

一、特別に脚が弱くなった理由の一つ、

私は現在も大阪府舞踏教師協会の会員で、証明バッジも所持しています。れっきとしたダンス教師で、もぐりの教師などではありません。終戦直後の昭和二年、流れ込むように英国国技のポール・ルーム(社交)ダンスが紹介され、あつという間に日本中に広まりました。とつ憑かれたように毎

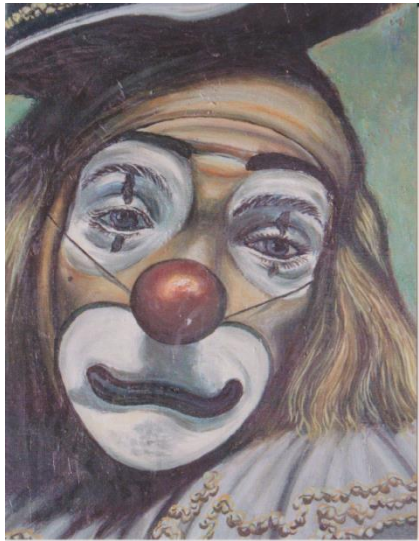
日の練習に通うも、教師見習いに無給で採用される迄には十年の月日を要しました。見習いから正教師に出世?し、その後紆余曲折の結果、次々とレッスン場と契約しては数百人の踊り手を生み、自身も正種目やラテン型のデモンstrレーターとなって、終には当時屈指の競演会館とされた美人座でショウ・ダンスを披露するまでに至りました。その頃ラテン型の名手竹内優岳先生に師事し、そのお蔭を持ちましたことを今も感謝しています。

師はその後、三笠宮御夫妻の要請に応えて御夫妻を教導しているその場で、心臓発作の為帰らぬ人となりました。痛ましい最期でした。

思いますに、ダンス教師は自己暗示にかかって、知らぬ間に何百軒も走っていますので、その無理が災いして歳をとると自業自得の状態となること必定であると嫌という程教えられました。(次

号に続きます)

* 中本兄は大阪在住の方で、地の教会で主日礼拝を守り、月一回の割合で新幹線を利用して金沢文庫教会で主日礼拝を守っていらつしやいます。神学校時代からの白根牧師の友人として、本教会を支える大黒柱の一人です。



「汝らの悲しみと苦しみを

我に与えよ、

さらば、我、我が喜びを

汝らに与えん！」

中山将太郎画

汚い話

中山将太郎(医博)

とかく、作り話とか都市伝説、お伽噺とかは、架空のものが多く、一笑に付してよい。しかし後日、



経済とくに医学の進歩で、理想が現実になるのが少なくないのは周知の通りである。

たとえば、旧約は「モーセの出エジプト記」で、モーゼがエジプトから連れ出した六十万のイスラエル人が、シナイ半島で、四十年さ迷い歩いたという記事である。カナンの目的地に行くのに、そんなにかかるはずはないと私は信じ、それを思い出すと、夜も眠れない。

その間、シナイの砂漠で用を足すのに、小の方は問題ないとして、大の方は済ました後、砂漠の石を拾ってお尻を拭いたようだ。よく肛門が爛(ただ)れなかつたと心配だ。

それより日本人の悪い癖で、海外旅行に出たとき、よく記念に石を拾って持ち帰る。老婆心ながら、シナイ半島のはよした方がよい。

また、学校怪談の中で、御手洗の便器から手が出て、お尻を拭いてくれるというのがあるが、文明

国とくに日本に於いては、とうの昔に田舎でも、水洗トイレが普及し、難なくこの問題はクリアされている。

ちなみに、日本で一番最初に公衆水洗トイレが普及したのは私が卒業した台湾大学(昔の台北帝大)医学部付属病院で、私は何時もそれを誇りに思っている。

アメリカで客死した、胡適と並び称えられた林語堂博士は、「人間で最も厄介な問題は、胃の底に穴が開いていることだ」といった。ここから、いくら食べても、漏れてしまうので、様々な紛争や国際間で戦争が起こる。

事実、人間毎日食べて出す。食べてばかりで、出さないと大変なことになる。某首相のように、漏(くた)つてばかりであると仕事にならず、辞めたのがいたが、むしろ下痢より便秘に悩まされる人が多い。

*その首相、今元気に返り咲いているが……。おめでどうござい

ます。



フラワーアレンジメント

大井法子作

「インドの子供たちが教えてくれたこと」と

星野 優

野浦男・朋子夫妻のお孫さんで、小学校三〜六年に本教会学校在籍し、今春高校一年生になりました。)

私は、今年(2012年)の春休みを利用して、インドのラジャスターン州にあるウダイプール村というとても小さな村へボランティアにいつてきました。ボランティアの内容は主に、現地の子供たちのため新しい学校の建設などでしたが、私が一番見たかったのは、現地で暮らす子供たちの様子でした。

ボランティアを通じて私は本当にとくさんの子供たちと出会うことができました。母と妹を養うために年中休むことなく働く十五歳の少年や、両親をなくした幼い弟の世話をする兄、石を削って彫刻を施し、それを観光客に売ることで生活源を得ている五歳の少女など……。どの子どもにも話を聞いても胸を痛める内容でし

だが、彼らは決して「苦しい」、「辛い」などと弱音を吐きませんでした。それどころか、これが私に与えられた人生なのだからこの道を生きていくと話してくれました。そして、私がインドで出会った子供たちはみんな家族を支え

あい、助け合ってその一瞬一瞬を生きていました。また、毎日が新しい発見に満ち溢れていて、私には子供たちがとても輝いて見えました。私は自分が今まで生きてきた世界がどれほど小さな世界であったかを痛感させられました。

日本で暮らしている私たちは、鉄筋コンクリートで造られた丈夫な家に住み、辺りが暗くなったら当たり前のように電気をつけ、お腹いっぱいになるまでご飯を食べることができています。十分過ぎる位に恵まれた環境にあっても、私たちはいつも自分たちが満たされるための何かを求めています。しかしインドでは、今に

も崩れてしまいそうな小さな家に大人数で住み、電気もきれいな水もないところで暮らしているも、自分の今の想いが少しでもい未来につながると信じて、希望を持って生きている人たちがいました。

私が今回の旅で得たもの、それは「勇気」です。「明日にはきっと何かが変わるんだ」という強い想いを知り、明日へと踏み出す勇気が私にも生れました。

たとえ電気がなくても、住んでいる場所が何処であろうとも、自分を恥じることなく、前を向いて生きていくことの大切さを身をもって感じる事ができた旅でした。

（評価のポイント）

「中学生の女の子がインドの小さな村にボランティアへ行ったことにまず驚く。筆者は村で出会った小さな子供たちの生活に胸を打たれる。辛いはずの環境であ

りながら、弱音を言わず、笑顔で過ごす子供たち。助け合いながら前向きに生きていくその姿に、明日へ踏み出す勇気をもらおう。将来を担う世代が、グローバルな経験と感性を旅を通じて培っている頼もしさを感じる作品」とのことです。



信仰に生きる
「私の不信仰を

お許し下さい」

故大井 人（元協力牧師）

説教ノートより

（聖書 マルコによる福音書

九：二四～二九）

教会に集められた私たちが、先ず第一に問われているのは信仰です。使徒パウロも、人が義とされて神と隣人とが正常な関係で生きるようになるには「信仰」による、と主張しています。（ローマ 3:28） ルターもこのパウロの主張が真実であることを読み取り、人間が救われるのは「信仰による」と主張しました。またヘブル書の著者も「信仰がなければ神に喜ばれない」（ヘブル 11:6）と述べています。

それでは信仰とは何なのでしようか？ また「信仰によって生きる」ということは具体的にどんな生き方なのでしょう？

イエスによって示される信仰は、今日私たちが論じるような「神の存在を信じるか否か？」というようなものではありません。むしろ神の全能の力とその働きを信じるか否かの問題です。つまり「信仰」は、全能の力とその働きに於いて実在している方への「信頼」を意味します。

マルコ 9:14-29 はその典型的な例と言えるでしょう。この中で父親はイエスに対して「もし、何かお出来になるなら、私たちを憐れんで助けて下さい」と願い出たのです。これに対してイエスは「もしできれば、というのか？信じる者にはどんなことでもできる」(9:22-23)と言われます。ここでイエスを信じるということだが、「何かできるなら」といった中途半端なものでなく、「信じる者には、どんなことでもできる」方であるイエスを全く「信頼する」ことを意味しています。そこで父親は直ちに「私は信じ

ます。私の無信仰をお助けください」(9:24)と、「信頼」を言い表しています。

第一は、この物語で示されている「信仰」の構造は、信者自身の生来の力や可能性を基礎としているのではなく、どんなことでもなしたもうことができるイエスに基礎付けられています。パウロも「信仰」とは「信頼」を意味すると述べています。しかしそれは信者が「自分自身を信頼することではなく(Ⅱコリント 1:9)、「肉を頼みにする」ことでもなく(ピリピ 3:3,4)、「死人を甦らせて下さる神」を信頼することに他なりません。信仰とは究極的に、徹底的に信頼できる方への信頼を意味するのです。

教会はいかなる時にも主イエスを信頼し、主イエスを死人の中から甦らせた全能の父なる神への信頼を持ち続けることです。詩編 23 編には徹底的な神への信頼があります。

第二は、「信仰」はキリストの言葉、福音を聴くことに始まり、聞き従うこととして形成されます。目で見ることや手で触ることによって確かめることのできるものとしてではなく、聞き従うことによって成り立つ人格関係として形成されます。

キリストの生涯も父なる神への従順であった。(フィリピ 2:6-11)

第三は、信仰には「告白」が伴い、パウロはローマ 10:9,10 で「心で信じる」は単に知的承認や同意ではなく、人の心をご存知である神の前に、人格の根底から神の働きかけを受容し信頼し、服従することを意味します。

信仰の告白は「我信ず」として、キリストの生と死と復活の意味を承認し、それをいいあらわすこととあります。それは同時に全く新しくされることであります。Ⅱコリント 5:17 の如く「だから、キリストと結ばれる人

はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」のです。



松田みちよ画

もつと神様について語って下さいっ！

犬塚志朗

私は英語の教師でしたが、キリスト教系の高校の朝の全校礼拝で「人の感覚、推測はあてにならない」というテーマで次のような話をしました。

「私はいへんな発見をしました」と言って、新聞紙を広げ、「これを二つ折りにし、さらにこれをもう一度二つに折り、さらにまたこれを二つに折り・・・」と説明

しながら実際に折って0.1mmの厚さの紙が折るごとに倍、倍、倍に厚くなっていくのを示し、「これを五十回ほど折り重ねていったらどのくらいの厚さになるのか?と、それを皆に尋ねたところ、30cm、30cm・・・厚くても1m止まりの答でした。でも正解は、なっ、なんと、ここから太陽までの距離(約一億五千万キロメートル)に接近し五十一回目ではるか

き、信じることができます。だけど神様の存在に関しては皆が納得する証明ができません……。(以下話は続きます)」

礼拝で話をした後、生徒たちの反響は大きく、「面白かった、とか、計算の仕方を教えてくださいとか……、擦れ違うごとに次々と反響、質問が続きました。一日中、私は嬉しく気をよくしていました。

ところがその日の夕方、人影のない教室で、偶然、私が日頃信頼している二人の高三の女子クラス委員に出会いました。彼女たちは私に迫ってきて、怒りを込めて私に訴えました。

「今朝の礼拝の話は何ですかっ!もっと神様について語ってくださいっ!」と。

二人で交互に私を責め立てました。

その二人は大学卒業後、一人はミッション系の小学校の教員に、もう一人は世界的にも有名な

日本の企業の社員として、オランダ、フランス、米国等に出張して活躍していました。

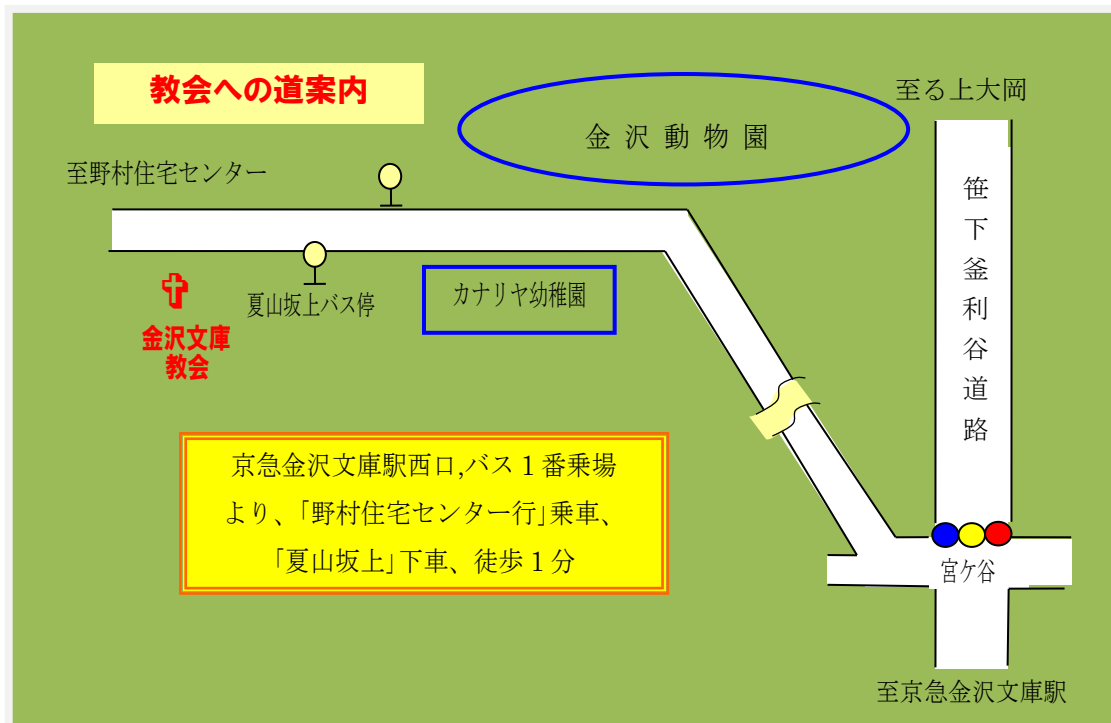
特に最終学年で卒業を控えている高校三年の生徒たちの礼拝時には、ひたすら真剣に神様のみ言葉そのものを求めていることがよくわかりました。

☆牧師室の窓から

2013年度の目標は「忠実」である。この一年

1. 主は忠実さを求められる
 2. では何に忠実であるべきか
 3. 忠実な人に対する祝福
 4. 聖書に出てくる忠実な聖徒たちについて
- 以上、5項目を追って学んで行きたい。

「小事に忠実なる人は、大事にも忠実である」ルカによる福音書 16:10



日本バプテスト同盟金沢文庫教会		
集会案内		
☆教会学校 (小学生)	毎日曜日	午前 9:00~10:00
☆主日礼拝	毎日曜日	午前 10:30~12:00
☆聖書研究・祈祷会	毎水曜日	午前 10:30~12:00
☆牧師相談日	毎火曜日	午前 10:30~

☆あかしびとペンテコステ号

☆発行日 二〇一三年五月一九日

☆発行所 日本バプテスト同盟
金沢文庫教会

☆住所 〒236-0046
横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20

Tel/Fax 045-783-5475

☆発行者 牧師 白根新治

☆印刷所 (株)高陽印刷所

☆住所 横浜市南区白妙町 3-39

☆電話 045-251-4832

